

第1回(2012年)
平城遷都 1300年記念アジアコスモポリタン賞
受賞者プロフィールと受賞理由



東アジア・アセアン経済研究センター

2012年11月

第1回アジアコスモポリタン賞大賞受賞 / スパチャイ・パニチャパック



名前： スパチャイ・パニチャパック
(Supachai Panitchpakdi)

所属： 国連貿易開発会議(UNCTAD) 事務局長

国名： タイ

プロフィール： 2005年より国連貿易開発会議(UNCTAD)事務局長。前職は世界貿易機関(WTO)事務局長、タイ副首相、商業大臣を歴任。副首相として、国の経済・貿易政策立案を担当し1994年のウルグアイラウンド合意に署名、地域協定の策定に貢献した。

【受賞理由】

アジアコスモポリタン賞大賞の第1回受賞者はこの賞の方向性を決めることとなる。したがって、分野や専門性を問わず、真に「アジアコスモポリタン」を象徴する人物に授与することが望ましい。選考委員会は全員一致でスパチャイ・パニチャパック博士を選出した。

スパチャイ氏は、3つの点で「アジアコスモポリタン」である。第一は氏の輝かしい経歴である。氏は、アジア人として初の世界貿易機関(WTO)の事務局長(2002年から2005年)を務めた人物として知られ、また現在は国連貿易開発会議(UNCTAD)事務局長を務めている。同氏の働きにより、ヨーロッパおよび世界におけるアジアの存在感が大幅に高まった。氏は、優れた教育および職務経験を背景に輝かしいキャリアを積み、世界中の人々の強い支持と信頼を得てきた。エラスムス大学で学び、第一回ノーベル経済学賞受賞者ヤン・ティンバーゲン教授の指導の下、人材計画開発を主題とする博士論文での博士号を取得した。その後、タイ国内でタイ中央銀行を皮切りに、副財務大臣、副首相、商業大臣その他を務めて実績を積み、貿易交渉に特に豊富な経験を持つエコノミストとして尊敬を集めるに至った。1994年マラケシュでのウルグアイラウンド合意の調印式にはタイ代表として出席した。

第二は、氏の自由貿易を支持する一貫した姿勢である。1990年代、ASEAN および東アジアでは、第二のアンバンドリングすなわち生産工程やタスク単位での国際分業が積極的に展開され、生産の分散立地と産業集積の形成が同地域の経済活力強化において中心的役割を果たすようになった。政策面での経済統合の必要性に応じ、氏は、アジア太平洋経済協力会議(APEC)、東南アジア諸国連合(ASEAN)、アジア欧州会合(ASEM)などの地域枠組みの構築に積極的に取り組んだ。これにより現在のASEAN、東アジア、アジア太平洋における地域経済統合の原型が築かれ、それが同地域の成長と繁栄の核となった。WTO および UNCTAD におけるスパチャイ氏のリーダーシップの下、開発問題が自由貿易推進の枠組みに明確に組み込まれた。これは世界がASEAN および東アジアでの大きな成果を途上国の新しい開発モデルとみなすようになる重要な一歩となった。

第三は、氏の人柄である。彼に直接会った人は皆、彼が「アジアコスモポリタン」としての全ての人徳を備えていると認めざるを得ないだろう。彼は常に謙虚で温厚、誠実であると同時に公正で一貫性があり、建設的である。アジアが氏の人間性を通して世界に開かれたことは大変喜ばしい。

選考委員会は、スパチャイ・パニチャパック博士がアジアコスモポリタン賞大賞の第1回受賞者にふさわしいことを自信を持って宣言する。

第1回アジアコスモポリタン賞経済・社会科学賞受賞 / ベネディクト・アンダーソン



名前: ベネディクト・アンダーソン
(Benedict Anderson)

所属: コーネル大学政治学部名誉教授

国名: アイルランド

プロフィール: 中国・昆明生まれ。ケンブリッジ大学で古典学の学士号、1967年コーネル大学大学院政治学研究科博士号取得。東南アジア地域研究者。特にインドネシア、タイ、フィリピンの各国の政治・文化研究における権威であり、これらの国の多数の著書がある。1983年の著書「想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行」が最もよく知られ 34 言語に翻訳されている。

【受賞理由】

経済・社会科学賞は、政治学、経済学、歴史学など、アジア、さらには世界の政治と経済の理解について、われわれに深い洞察をもたらし、またアジアにおける社会科学・人文学の発展に多大の貢献を行った知識人とその業績を顕彰することを目的とする。第1回の選考会議においては、こうした顕彰目的に鑑み、ナショナリズムを「想像の共同体」と捉え、その起源と世界的普及に関するきわめて独創的な研究によってわれわれのナショナリズム理解に貢献したベネディクト・アンダーソン博士が最も相応しいとされた。アンダーソン博士は、1983年に公刊された『想像の共同体: ナショナリズムの起源と流行』において、われわれのナショナリズム理解を大きく変える新しい分析視角を提供し、現在では、本書は 34 言語に翻訳されて、すでにナショナリズムの古典となっている。また、アンダーソン博士は、*Java in a Time of Revolution: Occupation And Resistance, 1944-1946* (1972)、*Language and power: exploring political cultures in Indonesia* (1990)、*The Spectre of Comparisons: Nationalism, Southeast Asia, and the World* (1998)、*Under Three Flags: Anarchism and the Anti-Colonial Imagination* (2005)など、きわめて洞察力に富む一連の独創的な研究によって、東南アジアの歴史、政治、文化に関するわれわれの理解を深める上でも大きな貢献を行った。さらにアンダーソン博士は、米国のコーネル大学において、多年にわたり、東南アジア出身の東南アジア研究者をふくめ、きわめて多くの東南アジア研究者を教育し、その中には、現在、東アジアにおいて、大学の研究者としてのみならず、ジャーナリスト、知識人、行政官、政治家などとして活躍している者も少なくない。コスモポリタン賞選考委員会は、アジア研究におけるアンダーソン博士のこうした研究・教育上の貢献に鑑み、氏をアジアコスモポリタン賞経済・社会科学賞の受賞者として顕彰することとしたい。

第1回アジアコスモポリタン賞文化賞受賞 / 井上雄彦



名前: 井上 雄彦 (いのうえたけひこ)

職業: 漫画家

国名: 日本

プロフィール: 代表作に国内発行部数一億部を突破した「スラムダンク」、連載中の「リアル」、「バガボンド」がある。文化庁芸術選奨新人賞など受賞多数。美術館全体を使った「井上雄彦最後のマンガ展」、真宗大谷派東本願寺へ描き下ろした屏風絵「親鸞」の制作など、これまでの枠を超えた活動も反響を呼んでいる。

【受賞理由】

アジアコスモポリタン賞に期待される文化賞は、文学、音楽、絵画など多様なジャンルの中で人々の日々の経済活動に関連し、東アジア共同体という遥かな理想の根幹となるAsianIdentityの形成へつながる文化的貢献という観点に着目して選考された。第1回の受賞においては、20世紀から21世紀にかけてアジアの経済発展に大きく貢献した日本国の現代芸術から世界のグローバルスタンダードたり得る成果を上げた「漫画芸術」が最も高い評価を得た。日本における漫画の発生は古くは鳥羽僧正の鳥獣戯画に由来するといわれている。大衆の中に生まれ、連綿と滑稽、諧謔、の精神を基本に独自の発展を遂げてきた「漫画芸術」においては、その中に音楽、詩、哲学、小説、絵画、映画、などのあらゆる要素を取り込む努力がなされて来た。文字では表現できない画像という手法の持つ普遍性と、漫画形式のもつ定型的文学表現の普遍性、すなわち簡潔な文字と個性あふれる画像を駆使しコマ割りにより真実表すという表現形態が、日本で定着したのみならず、翻訳空間の最小化をもたらし、漫画表現の各国言語への翻訳を容易にし、巨大な読者の獲得に成功した。井上雄彦氏はその最前線に長く位置し、最も輝かしい成果を上げた芸術家である。氏の代表作である「スラムダンク」はバスケットボールというアメリカ合衆国で発生したスポーツを東洋的視点でとらえ、それに打ち込むことによる人生の意義を多くの若者に伝えた。バスケットボール自体にあまりなじみがなかった人々に努力、友情、そして達成することへの勝利の意味を伝えることにより、日本だけでも一億冊という驚異的な読者の獲得につながり、その共鳴は世界に広がり23カ国ですでに翻訳されている。アメリカ合衆国の東アジアサミット加盟は、アジアでコスモポリタンたろうとする人々を鼓舞するものであるが、氏の作品はまさにこのような世界の潮流の魁をなすものである。氏はさらにその視点を深め、障害者の人々が車いすを使って行うバスケットボールの世界を「リアル」という作品で描いている。人間の尊厳について色々な主人公の苦悩とその克服に向けた真摯な努力をリアルに描くことによって高らかに歌い上げる芸術性は他の追随を許さないものがある。また宮本武蔵という剣豪の人生を描き、生と死の問題を哲学的に追及した「バガボンド」という作品も多くの読者の共感を得ているところである。その表現手法においても独自の工夫が試みられ、東洋的伝統を踏まえた水墨的表現にいどみ、その成果を美術館全体をつかった「井上雄彦 最後のマンガ展」や浄土真宗大谷派東本願寺より依頼された宗祖「親鸞」の屏風絵の創作などに実現させており、「漫画芸術」の新しい地平を開く活動を展開している。

このようにアジアにおいて万人が受容可能な新しい現代芸術である「漫画芸術」の確立、啓蒙、普及に著しい成果を上げた氏の業績は、東アジア共同体の形成に向けての顕著な文化的功績に与えられるアジアコスモポリタン賞文化賞の受賞にふさわしい。

第1回アジアコスモポリタン賞メモラブル賞(特別賞)受賞 / ハディ・スサストロ



- 名前: ハディ・スサストロ (故)
(The late Hadi Soesastro)
- 所属: インドネシア戦略国際問題研究所 (CSIS) 創設者
- 国籍: インドネシア
- プロフィール: インドネシアのエコノミスト。インドネシア戦略国際研究所の創設者の一人であり、同所元所長。1999年から2000年までの間、インドネシア大統領の経済顧問を務め、また、世界銀行およびアジア開発銀行の顧問としても活躍した。アジア地域における著名な学者、知識人であり、インドネシアの経済のみならず、ASEAN 経済共同体の形成の中心人物として、多くの地域機関・制度の構築活動に数多く関与した。

【受賞理由】

故ハディ・スサストロ氏に第1回アジアコスモポリタン賞の特別賞となるメモラブル賞を授与する。ハディ氏は、東アジア共同体の実現のために多大な貢献をした人物に贈られる賞を受賞する最初の知識人の一人となる。

ハディ・スサストロ氏は、地域統合推進への関心と積極的な関与でこの地域では著名な、インドネシア随一のエコノミストの一人である。氏はジャカルタに本拠を置く戦略国際問題研究所 (CSIS) の所長を務め、2010年5月4日に死去した。

今回の受賞は、ASEANおよび東アジアにおける経済統合と協調の深化を推進した彼の思想や提案、努力を高く評価したものである。氏は、ASEAN関連のテーマについての知的活動において、この地域の安定を維持するためにASEANが果たす役割の重要性を支持する。これをさらに進めて加盟国間のさらに深い統合と協調の概念を推進し、よりつながった、あるいはグローバルな枠組みで、世界経済におけるASEANの役割を強化しようとした。

ハディ氏はASEANの取組みや計画の多くについて、常に支えとなり見識を与えてきた。例えば、多くの機会を使って、AFTA (ASEAN自由貿易地域) を設定する理由と利点を一般大衆に対して粘り強く説明した。また、ASEAN加盟国間の投資を活発にすることの重要性を主張した一人でもある。その後ASEANが東アジア経済統合の実現に大きな役割を果たすことになり、この主張が建設的で有意であったことが証明された。

ハディ氏はまた、東アジア経済統合の深化とこの地域統合のアーキテクチャーを実現する方法の探求に情熱を注いだ。氏は、2006年のAsian Economic Policy Review (AEPR) (アジア経済政策レビュー) への寄稿で、地域統合は、市場統合、機能統合、制度統合の3つの重複するプロセスから成ると述べている(スサストロ、2006年)。これらのプロセスにより、1990年代の一方的自由化の結果である市場志向型の統合、東アジア地域生産ネットワークの形成、AFTAの輸出志向的性質を、機能的および制度的統合を追求することによりさらに発展、強化すべきと主張する。機能統合は、様々な自由化および円滑化の措置の調和的または共同的導入を伴い、一方、制度統合は統合全体のプロセスを支える機構の設置を必要とする。

自身のAEPRへの寄稿記事で明示しているとおり、ハディ氏はASEANセントラリティの前提が東アジア経済統合のための根幹をなす要素であると主張した。一方で、ASEANがその中心的地位を維持するには数々の大きな課題があることも認めている。東アジアの枠組みにおける「ハブ」(車輪の中心)は全てのスポークに同じ扱いをするのが理想であると氏は主張したが、これは今のところ実現されていない。

ハディ氏の、25年以上にわたるASEANおよび東アジア共同体構築プロセスへの知的貢献には目を見張るばかりである。学界では、氏は、その思想だけでなく行動でもよく知られた存在であった。また、この地域のトラック2の組織機関(学会による組織される機関)や活動の形成に向けた氏の尽力と深い考察は、高く評価された。ハディ氏は、太平洋経済協力会議(PECC)の創設、最近では、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)の設立に大きな役割を果たした。その後、氏はERIA学術諮問委員会の委員長との地位を与えられた。ハディ氏のアイデアのいくつかは現在のERIAの代表的プロジェクトに反映され、ASEANおよび東アジアの統合計画を支えている。

ハディ氏は、学者仲間の中でのみ活動していたわけではない。東アジア自由貿易地域(EAFTA)創設のための専門家グループや韓国・アセアン見識者グループなど、地域統合に関する様々な団体のメンバーとしての貢献を通じて、主要な政治家や国の指導者らとも接触した。さらに最近では、インドネシア随一のエコノミストとして、G20会議でのインドネシアのシェルパも務めた。

氏は国際的な貢献と同様に、祖国インドネシアのためにも目覚ましい貢献をした。経済問題のみならず政治、国際関係、国防、エネルギー等のインドネシアにとって重要な幅広い問題について公の場で議論をした。氏はまた、インドネシアエコノミスト協会、インドネシアエネルギー経済研究所その他様々な団体の活動的で尊敬されたメンバーであった。同国の国家経済会議の一員を務めた時期もある。

ハディ氏は莫大なアイデアと行動の遺産を残した。それらは今日の東アジア統合の思想の柱となっている。